

## さようなら、南徹さん

松岡 美佳†

今、私の手元には、南徹さんの中間発表のレジュメ「SNS(Social Networking Service)を利用した地方紙の新たなインターネット事業の創出—読者コミュニティの地域を越えた連携—」と2013年10月28日付で職場へ届いた「北克一教授退官記念祝賀会(2013年3月16日)」の集合写真が残されている。

送られてきた写真には、「北ゼミの皆様」として、丁寧な添え状がついていた。集合写真同封の件に加え、祝賀会当日に撮影したスナップはweb上のニコンの写真共有サイト「NIKON IMAGE SPACE」にアップロードされていること、さらにURLのアドレスと粋なパスワード(北先生が日ごろおしゃっている言葉)が記載され、写真をダウンロードする場合やスライドショーで見るとの説明が事細かに記されていた。最後にアップロードされた『情報学』(10巻2号)北克一先生退官記念号について触れられ、2013年10月の日付とともに南さんの直筆のサインで終わっている。

添え状を見るだけで、南さんの律儀で、親切で、丁寧で、完璧主義的なお人柄が伝わってくる。そして、封筒の宛名の手書きの文字や南さんご自身のサインは、どこかジャーナリストの薫りが漂うおしゃれな書体だった。おそらく南さん愛用の万年筆が使われたのではなかろうか。ロイヤルブルーのインクで書かれた文字は南さんそのもので、温かみのある、優しいものだった。目を閉じると、南さんの少し照れられたような笑顔が浮かんでくる。

梅田のサテライトキャンパスで行われた大学院の授業やワークショップで南さんのお姿を拝見すると、いつもなぜかほっとして、安心感を抱かせてくれた。南さんは同級生とはいえ、私たちの人生の大先輩で、親父さんの存在でもあり、誰もが敬意を表していた。しかしご本人は、決して出しゃばることなく、謙虚で、控え目な姿勢を貫かれていた。

そう、あの頃は、確かに南さんがいらっしゃった—2009年3月、私は大阪市立大学大学院創造都市研究科への合格を喜ぶ間もなく、仕事上の思いもかけぬ人事異動で青ざめていた。大学図書館を離れ、まったく畑違いとあってよいZ学部の事務室へ配属されることは、大学院での研究テーマを否定されたに等しかった。そもそも入学してやっていけるのか大いに悩んだ。しかしせっかくだといただいたこの機会を逃したくない思いと北先生や大学院の先輩方のアドバイスや励ましで、進学を決意した。

とはいえ、異動先のZ学部は4月に開設する新設学

部で、しかもこれまでの学部設置準備室の職員の方々は退職や異動されることがわかっていた。4月にZ学部の新学部長に就任予定の先生から、「4月1日に第1回教授会を開くからよろしく。」と挨拶され、そもそも「教授会」とは聞いたことはあるが、具体的に何をするのかさっぱりわからず、目の前が真っ暗になったのを覚えている。それ以来、夜もほとんど眠れなかった。

このような事情で、梅田のサテライトキャンパスへ顔を出すことができたのは、入学式も終わり、授業もすでに始まった4月下旬頃だったと思う。その時に、同期で入学した院生のうち、北ゼミには南徹さんと津野正恵さんと私の3名がいることを初めて知った。当時、南さんは定年間近であられたと思う。

その後も職場では新設学部ということもあり、連日夜遅くまで学部長、副学部長、教学主任など執行部の先生方と事務職員の会議や打合せが開かれた。23時を回っても、結論がでない案件や新たな問題が持ち上がった。頭の片隅ではいつも大学院のことが気にかかっていたが、とても手の回る状態ではなかった。そんな中、なんとか職場を飛び出して、少しでも授業に顔を出せた日は、同期の方々から色々な情報を教えてもらったり、欠席した授業の資料をいただいたりした。先生方もこのような状況に理解を示し、ご配慮下さった。私にとって、本当に温かい支えであり、今も感謝している。

南さんにも色々とお助けいただいた。お嬢様がやはり大学に勤務されていたそうで、私の仕事の愚痴をいつも辛抱強く聞いてくださった。ある時、社会人になって、どうしてまたわざわざ大学院で勉強をするのかという話題になった。南さんが進学を決められた時、ご家族の方は最初は戸惑われたというようなことを伺った。

南さんのご尽力で、ワークショップで、南さんの職場の新聞社を見学する機会があった。社員の方が社内を案内してくださったり、講演を拝聴したのも、今では懐かしい思い出である。

ただ、心残りなのは、ワークショップなど授業後の北ゼミの飲み会にほとんど参加できなかったことである。特に火曜日のワークショップの翌日が職場での定例の会議の日で、朝から学部内の委員会(人事委員会や学務委員会等)が3つ立て続けにあり、最後に教授会が入ってくるという時も多かった。そのため授業終了後も急いで職場へ戻って会議資料の準備やシナリオ作成等々の仕事をするか、あるいは自宅に持ち帰り、仕事をこなし、やっと間に合うという状態であった。南さんと授業以外の飲み会の席でご一緒して、もつともつとた

† 2012年度修士課程知識情報基盤研究分野修了

くさんのお話を伺うことができればよかったということが、  
悔やまれてならない。

南さん、研究の道半ばでのご逝去、本当に心残りであられたと思います。何の事情も存じあげず、あまりにも突然の訃報で、私はただただ茫然とするばかりでした。ご家族の皆様もさぞや深い悲しみのなかにいらっしやることと拝察いたします。

南さん、どうか極楽浄土から、ご家族や私たちを見守っていてください。そして、研究に、勉強に怠けていたら、優しく叱ってください。

心からのご冥福をお祈りいたします。

この拙文をご霊前に捧げます。 合掌。